

市民クラブ市政報告

発行：姫路市議会市民クラブ 姫路市安田四丁目1番地 ☎：079-221-2042 編集責任者：常盤 真功



お世話になります。

皆様にご支援・ご支持頂き活動を進めております、『姫路市議会 市民クラブ』の仲間です。

今回は、『令和3年度決算概要』、『コロナ克服、原油価格・物価高騰等総合緊急対策』、そして9/2～10/4までの33日間で開会された『令和4年第3回姫路市議会定例会での個人質疑』についてご報告致します。

I. 『令和3年度決算概要』について

会計名	歳入決算額	歳出決算額	実質収支
一般会計	2,424億8,278万5千円	2,332億5,220万円4千円	54億9,602万9千円 ※1
特別会計(7会計)	1,144億1,857万8千円	1,110億8,490万円9千円	33億3,325万2千円 ※2
企業会計(収益的収支)	(収入)	(支出)	(当期純利益)
水道事業	116億4,057万7千円	91億3,178万円	25億879万7千円
都市開発整備事業	8,798万9千円	4,368万4千円	4,430万5千円
下水道事業	180億8,520万2千円	180億8,520万2千円	0円

【一般会計】

一般会計の歳入2,424億8,278万5千円、歳出2,332億5,220万円4千円で、形式収支は92億3,058万1千円、ここから翌年度への繰越財源37億3,455万2千円を差し引いた※1実質収支は54億9,602万9千円となり、昭和43年度以来54年連続の黒字を確保

【特別会計】

7会計合計で、歳入1,144億1,857万8千円、歳出1,110億8,490万円9千円で、形式収支は33億3,366万9千円、ここから翌年度への繰越財源41万7千円を差し引いた※2実質収支は33億3,325万2千円の黒字。会計別では、全ての会計で赤字決算はなし

【企業会計】

水道事業会計、都市開発整備事業会計が黒字、下水道事業会計は収支均衡

II. 『コロナ克服、原油価格・物価高騰等総合緊急対策』について

オミクロン株対応ワクチン接種等による感染拡大防止対策に加え、物価高騰の影響を受ける市民や事業者を支援するため、切れ目なく総合的な施策を実施

【市民の「命」を守るために】・新型コロナウイルスワクチンの4回目接種の対象拡大 ・インフルエンザワクチン接種補助

【市民の「一生」に寄り添うために】・物価高騰の影響を受ける公立小中学校、公立保育所等の給食用食材費を支援

【市民の「くらし」を元気にするために】・中小企業・個人事業主向け支援金の給付

Ⅲ.『令和4年第3回姫路市議会定例会での個人質疑』について

駒田かずみ議員が質問しました

【個人質問：質問日 9/12】

第3回定例会では4項目について個人質問を行いました。その中から『決算について』、『各種DXの状況について』、『猛暑対策について』の3件についてご報告します。

●令和3年度決算について

Q: 現年度での収納率を上げるために、時間的な制約が少ないインターネット銀行の口座振替やキャッシュレス決済の積極的な導入が必要ではないか？

A: インターネット専業銀行の口座振替は他行に比べ手数料が高額な為、課題があるが、公金の納付方法の多様化は市民サービスの向上と収納率の改善につながると考えられるため市民ニーズを把握しながら更なる環境整備に努めていく。

Q: 上下水道の管路について AI による劣化診断を導入することで、漏水等が発生する前に予防保全が可能になると共に、経営の効率化が図れるのではないかと？

A: AI による上下水道管の劣化診断については劣化状況の予測や可視化により、管路更新の効率化のみならず漏水や陥没事故の抑制に資する効果が期待できるものと考え費用対効果の側面も勘案しながら積極的に検討したい。

●ひめじポイント（自治体マイナポイント）の交換先について

Q: 昨年からはまったひめじポイントの交換先として、ICOCA カードやふるさと納税を活用したクラウドファンディングは？

A: 姫路市としてもマイナポイントモデル事業として連携を希望していたが事業者が参加しておらず選択できなかったが、今後国の事業者で ICOCA カードが参加することになれば連携したい。ふるさと納税を活用したクラウドファンディングも制度上可能となれば検討していきたい。

●猛暑の中での職員の労働環境の在り方について

Q: 職員の猛暑対策として、自校調理を行っている小学校の給食調理室へのスポットクーラーの設置状況や、屋外作業を行う職員への空調服に関しては要望したが導入されていない部署があると仄聞しているが、導入状況は？

A: 自校調理を行っている給食室への空調設置については、令和3年度から給食室改築時に整備しており、今後計画的に整備することとしており、令和4年度は4校について実施設計を進めている。

A: 空調服に関しては、各職場における業務内容や従事時間、従事環境は多岐にわたっており状況は様々であることから、一律の基準は設けず個々に判断することとしているが、来年度は、各所属から申し出があった際には業務の状況等を十分に把握するとともに、その必要性を適切に判断し、より安全な労働環境の確保に資するよう努める。

財政健全化やDXについて 利用者・生活者の目線から質す！



山口悟議員が質問しました

【個人質問：質問日 9/13】

本定例会にて、5項目について個人質問しました。

『姫路市立高等学校について』、『不妊への理解が進む社会づくりについて』、『手柄山中央公園再整備の進捗状況について』の3件についてご報告します。

●姫路市立高等学校について

Q: 新たな市立高等学校がどのような学校になるのか、市民の期待も大きいと考えるが、どのような学校を思い描いておられるのか。

A: 少子化が進行する中、専任教員の配置や特色ある教育活動を進めるために必要な学級数の維持ができなくなるとともに、部活動の縮小など多様な学びの機会を失うことになる。したがって、市立高校を1校にし、本市の未来の人材を育成する魅力ある学校を新設したいと考えている。立地条件を踏まえ、現在の中央卸売市場の跡地の活用を検討している。財源や教員などを集中させ、本市の魅力を体現する学校をつくり上げたい。

●不妊への理解が進む社会づくりについて

Q: 厚生労働省が行った調査では、不妊治療と仕事の両立ができず、16%の女性が離職されている。保険適用により経済的負担が軽くなった今だからこそ、その他の社会的な要因で治療をためらうことのないように、また、働きながら治療に専念できるように、本市としても環境整備に取り組むべきだと考えるが、本市の取組状況と対策はどのようになっているのか。

A: 厚生労働省では、不妊治療を行っている従業員への支援制度等の整備や普及に努めている。しかし、支援制度等を実施している企業は、まだ3割程度の状況である。昨年の4月に中小企業事業主の方を対象とした不妊治療と仕事の両立に資するための両立支援等助成金制度が創設された。本市として、制度の一層の活用に向け、商工会議所等を通じて情報提供を行い、事業主だけでなく、職場の同僚など、働く場において不妊治療に関する理解が深まるよう取り組んでいく。今後も不妊治療を受けながら、安心して働き続けられる職場環境づくり、不妊治療と仕事が両立できる社会の実現に向けて取り組んでいきたい。

●手柄山中央公園再整備の進捗状況について

Q: 本スポーツ施設の特徴と現在までの進捗状況や今後の整備スケジュールはどのようになっていますか。

A: 約5000席の観客席を有する新体育館、日本水泳連盟公認の約2500席の観客席を有した50mと25mプーを整備する。屋外施設では、流れるプール、だんだん深くなるプールや森のスライダーなど、子どもやファミリーで楽しめるレジャープールのほか、1年を通して利用できる多目的広場やBBQ等もできるアウトドア空間を整備する。環境面では、施設の屋根に太陽光パネルを設置。プールの補給水に井戸水を利用し、環境配慮型のスポーツ施設になっている。さらに、主要通路には段差を設けず、ユニバーサルデザインに配慮した施設となっている。今後の整備スケジュールについては、今年度末には実施設計を完成させ、令和5年度から造成工事に着手し、令和6年度から令和8年度にかけて建設工事を行い、令和8年10月の供用開始を目指している。

姫路市立高等学校等について 未来を担う子供たちのために質す！

